

20-98

特15  
184

150  
635

印度釋尊靈蹟圖記

版權登錄

014732-000-6

特15-184

印度釈尊靈蹟圖記

吉山 順吉 / 編

M26

ABC-0020



第一圖「サーンチ」

「サーンチ」は中印度「ブホポール」府の東北凡八里六丁「ブヒルサ」の西北  
ヒトワ「河の左岸に位せる一村落にして印度佛蹟中著名の靈地たり丘陵の高凡廿七

丁余にして砂紅石より成る半腹に「サーンチ」の村落あり頂き平坦にして中央に一大石

塔あり繞ちす垣牆を以てす十箇の小石塔又其周圍に散在せり又石鉢あり直徑二間余

一川余蓋し又往時供養の靈具なり其石塔の構造たる堅固堪久を欲するは砂紅石を

用ひ列柱山門等の彫刻莊嚴を要するは美麗の斑點ある砂白石を一里八丁余を隔つる

「マハーバンソー」より取り來れり此地今や一小村落に過ぎざるも昔時一大市街なりし事は近

郊一帶荒墟の散在せるを以て知るべきなり「フアガソン」氏の印度及び東洋建築史に「

マハーバンソー」錫倫古を引き曰く阿輸迦王「ウヂチアイン」の知事となり赴

任の途次「サーンチ」に近き「チエートヤギリ」に滯留せり其時酋長の女「デヴィ」と婚し

て隻仔及び一女を擧ぐ一女を「サングハミター」と名け隻仔を「ウヂチエニオ」及び「マ



ヒンドー」と名く後「マヒンドー」「サングハミター」共に出家し錫倫に佛教を傳通し大に功績を顯はせり其將ふ錫倫に赴かんとするや「マヒンドー」は其母后を「チエートヤギリ」に訪問して其母后の建立せる大寺に泊せりと此傳説たる未だこの「サーンチ」大塔のことを言はさるも苟も阿輸迦王アシュカ已前既に印度中或る建築の存在を了證する無つせは今この「サーンチ」を以て所謂阿輸迦王アシュカか建築せし八万四千の石塔の隨一なりとするも亦た不可なきなり然し若し此の「サーンチ」を釋尊の遺骨を得しは都府の隨一とせん乎然れども其古塔を發檢せるに埋骨の墳墓に非ず寧ろ一の紀念塔にして阿輸迦王アシュカ已前の建築たること殆んど殆んど信する能はさる所なり實に十箇の小塔中の第二は阿輸迦王アシュカの開設せる第三宗教會議に列して其論説を外邦へ弘傳せし佛教徒十名の遺骨を納めたり又其第三は二箇の寶篋ありて釋尊左右の脇士なる舍利弗目連の遺骨を寶藏せり之れ恐くは阿輸迦王アシュカが大紀念塔の傍に寶藏せしものにして其第二塔の如きは王已後の建築に屬し多分西洋紀元後の建設なる四箇の山門と同時の築造ならんとこれ即ち「ファガ

ソン」氏の史中に記する所なり法顯玄奘ゾウチンも記する所あらざるも亦實に希代の古跡ならずや

### 第二圖「ダールデーリン」

「ダールデーリン」に「ドールデーリン」と稱して「靈地」又は「照曜」を意味する語あり比拉耶山脈ヒマラヤの一の山嘴にして高山を隔て「ニホル」に連なる一地方にして海面を抜くこと凡一里余の高原なり西洋紀元千八百二十八年此地の保養地に適することを發見せしに始まり千八百三十九年「カンベル」氏の赴任せし時の如きは全地方中僅に二十戸に過ぎざりし夫より「カンベル」氏留任廿二年間に勸業場ウチヤギを開き會堂を設け道路を修し又一里余の高原なる「ヂェラパハール」を相して保養院を建設せり院の南方に當り一峯あり「トングルー」と名く海面を抜くこと凡二里其嶺を越へ遙に峯頭を見る其大僅に飛鳥の如し是即ち世界の最高山「エヴァーレスト」にして其高實に凡三里余なり「ダールデーリン」を距る六十間余の地に當れり其他「キンチンヂアンガ」凡十一里「シヤス」凡

十里「カブル」凡九里余「チュマラー」凡九里其の他凡三里已上の諸山一望の間に起伏せり就中「キンチンヂアング」峯の如きは林丘を隔て、其高凡二里に過ぎたる體々一聯の山間より遙にこれを望むに忽にして雲霧之を擁む忽にして雲散霧消山骨雪肌を現はし皓々青空に聳へ恰も蒼天裂る所巨岩之を補ふに似たり又此地の最も絶勝なるハ脚下起伏の丘叢は曉霧之を鎖して一望氷海の如く遠空波濤の雪山は旭紅に映射し山脚朦朧の間に隠れて峯頭彌高きを加ふの時にあり絶勝實に言可らざるなりと已上は「ハンマ」氏の「ハントブック」によりて之れを記す頃人あり曰く此地恐くは釋尊苦學の檀特山ならんと然れども「ハンター」氏の一語これに及さざるのみならず何人もこれに言及はざるを見れば恐くは訛傳ならん乎

### 第三圖鹿野苑

「ベナーレス」の北凡一里余に當り「サールナートフ」と名くる處ありこれ即ち鹿野苑にして「サールナートフ」は恐くは「サーラングガナ」釋尊既に正覺を成したまひ始めて法輪を轉して五

比丘を度したまひし靈地にして遺跡中或ひは釋尊在世の者もあるへし廢磚破石累々堤塘を爲し其長凡七丁に度り其幅又凡四丁に達するあるも今唯兩大塔の存在せるを見る別に一塔あり亦此を距ること遠からず就中最も著名なるは「ドハメーク」と名けて其形蜂窠に類す直徑凡四十九間其高五十五間周回凡二丁半あり柱脚の高凡二十二間にして堅牢なる石造にして綴るに鐵鈕を以てし其の外部の下層は凡八間毎に凸處を設く其數八個徑各凡十四間六尺其の各凸處に又小凹處を設へ蓋又佛像嵌入の爲なり此等の彫刻極めて鮮麗なり其上層は磚瓦より成るも頗る壞敗せり曾て此塔中を探るに「エードハルマー」等の梵文を刻せる石版を發見せり此を以て考るに是蓋納骨の塔にあらすして初轉法輪紀念の爲めに阿輸迦王の築設なるを恐くは又疑ひなきなり況や「ドハメーク」なる塔名は巴理語の「ドハンママチャクカ」梵語の「ドハルマチャクラ」即ち法輪を意味する訛傳ならんに於てをや法顯西歷紀元后三百九十九年より四百十四年までの間に 茲并西歷紀元後六百二十九 亦曾て此地に參拜せり次に其第二塔は西曆千七百九十四年之を鑿探せり其第三塔ハ「チアウカン

デイ」名けて第二「ドハメーク」塔の南方凡七丁の處にあり其高七丈四尺にして其形八角磚化の構造にして千五百三十一年「フマーニーン」王の臨幸紀念の爲に築造せるものなり圖中擧る所は第二「ドハメーク」塔なること又言を待たざるなり

第四圖佛陀伽耶

佛陀伽耶は「ベンゴール」の一地方伽耶市の南凡二里半尼連禪河の西岸に位し北緯廿四度四十一分四十五抄東徑八十五度二分四抄に當れり是實に大聖釋尊正覺成就の靈蹟にして佛蹟中最も著明の聖地なり中央に聳ゆる高塔は往時は塵芥に混せしも今や「ベンゴール」政府玄奘が記せる舊記に據り大に修理を加へ粗其舊觀に復せり縱令塔尖を加へざるも其高九十間に達し其礎は廿六間平方にして其臺地の如き又縦は五間横四十三間其高又十七間なり其古代の原築は石材にして之を修するに煉化石を以せり其石柱は四間より五間に至り塔壁の厚さこと八間に及へり此れ即ち阿輸迦王か世尊始成正覺の菩提樹下に築造せし舊礎により西曆十四世紀に當り「ブルメス」王の築造せるものなり

といへり又其内部は空虚にして之を四層に分つ其第一層は寶座を設け佛像を安せり其第二層は泥塗の寶座あるも佛像を安せず第二層第三層は又登覽を得ざるなり又殿堂を圍むの柵の數多の石柱に交叉するに四條の石材を以てせり往古は十六間の塵芥裡に埋没せしも今や之を發掘し其彫刻等より考證するに恐くは紀元前第三世紀の遺物にして即阿輸迦王の築造に係りて柵上に横はれる石材には魚身の女わりて鱈魚の口中に其手を夾入し又其耳大にして象耳の如く其後足非常に長き奇形の彫刻あり其他數多の柵柱王及横材には皆蓮花男女兒童等の彫刻を施せり即ち圖中塔下に見る所のものこれあり又其塔南を發するに水鉢あり飛足導いてこゝに至れるあり其東方即塔前には種々小奇物の外に嚴密に構造して彫刻を施せる柱梁の門戸を發見せり又其塔西を穿求するに十七間の塵芥に埋没したりし莊嚴なる金剛寶座を發見せり又其傍に菩提樹の朽根破片の散在を見たり又塔後に繁茂せる「ピツパル」樹即ち菩提樹は釋尊が六年間入定の曉に菩提を証成したまひし靈蹟にして世尊同時の樹は既に枯死し今や其同種を代植して他木

に超茂して二十五間余の大幹なりと此靈蹟や印度教徒と佛教徒とを問はず齊く禮拜供養して「ニポール」「ビルマ」錫倫等の巡拜者常に絶ゆることなしといふ

第五圖「コンバコナム」

「コンバコナム」は梵語「クンブハコナム」にて譯して「壺口」と名く「マドラス」管下「ダ  
ンジョール」地方の一市にして北緯十度五十八分廿抄東經七十九度廿四分三十抄に位  
せり此市今や大に衰へ人口僅に五万餘人あるも昔時は「チョラ」王國の首府にして南印  
度中の「オクスフォールド」と呼ばれたる文學隆盛の地なりしなり市の中央に殿堂あり  
其高二十六間に下らず韋紐神ウイシムを祭れる處にして十二層の高樓なり東西に窓牖あり以て  
市内を臨瞰すべきなり若し人此殿堂に登らんとせば石階老朽頗る危険にして又鐵欄の  
倚るべきなきを以て炬火を手にして登らざるを得ずと頃日此殿堂亦往時佛教徒の所有  
に屬せりとの説者あるも未だ其証を得る能はざる所なりと云爾

已上は「ハンター」氏の「インディアンガゼット」「ムルレー」氏の「ハンドブック」及

ひ「モニヤルウイラム」氏の「ブドドヒズム」によりて僅に其二三を抄譯す抄譯  
に臨み本より千聞一見の歎なきに非ざるも聊か記して以て責を塞く已耳讀者請  
ふこれを諒せよ

編輯者兼  
發行者

東京市麴町區富士見町二十三番地  
吉山順吉

印刷者

東京市神田區上白壁町六番地寄留  
市田甲次郎

印刷所

東京市日本橋區北島町一丁目廿三番地  
和合社

發行所

東京市麴町區富士見町二十三番地  
靈蹟館假事務所

明治二十六年八月廿三日印刷  
全八月廿七日發行

(定價金貳錢五厘)

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

LIBRARY

PHYSICS

DEPARTMENT

PHYSICS

DEPARTMENT

PHYSICS

PHYSICS DEPARTMENT

UNIVERSITY OF CHICAGO

PHYSICS DEPARTMENT

UNIVERSITY OF CHICAGO

PHYSICS DEPARTMENT

UNIVERSITY OF CHICAGO

PHYSICS DEPARTMENT